

営業所のご案内



- 仙台営業所 〒981-8003 宮城県仙台市泉区南光台7-4-1 ノンセタワー2F 906……………Tel.022(349)5186
【担当エリア】青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島
- 小笠原営業所 〒329-0412 栃木県下野市柴262-10……………Tel.0285(44)1020
【担当エリア】栃木、茨城、千葉、群馬、埼玉、東京、山梨、長野、新潟、神奈川
- 大宮営業所 〒449-0083 愛知県豊橋市下地町若宮55-2……………Tel.0532(55)2911
【担当エリア】愛知、三重、岐阜、富山、石川、福井、静岡
- 大宮営業所 〒562-0003 大阪府箕面市西小路3-11-28……………Tel.072(721)1821
【担当エリア】大阪、奈良、奈良、京都、和歌山、兵庫、鳥取、岡山、高松、広島、山口
- 高知営業所 〒783-0062 高知県南国市久礼田宮本431-3……………Tel.088(862)0311
【担当エリア】徳島、高知、愛媛、香川
- 久留米営業所 〒834-0121 福岡県八女郡広川町大字広川182-4……………Tel.0943(32)5963
【担当エリア】福岡、大分、佐賀、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄
- 本社営業部 〒329-0412 栃木県下野市柴262-10……………Tel.0285(44)1751
※北海道 Tel.0285(44)3590
- トマトパーク 〒329-0414 栃木県下野市小笠原1963……………Tel.0285(42)2787

販売元

S&H 株式会社 誠和。

〒329-0412 栃木県下野市柴262-10 TEL.0285(44)1751



誠和ホームページ <https://www.seiwa-ltd.jp>

←QRコードからもアクセスできます

取組店

10000



“革新”をその手に

～自分史上最高のパフォーマンスを～

誠和の養液栽培システム ラインアップカタログ



「魅力があり、夢が描ける、農業社会創り」をめざします。

Sincerity&Harmony

S&H 株式会社 誠和。

誠和の養液栽培システムは「地下部の環境制御」です。

私たち誠和は、光合成を高め、収量アップをさせる手段として「統合環境制御」の考え方を提案しています。環境制御というと地上部が目されがちですが、作物にとっては地下部の環境も地上部と同じく重要です。誠和の養液栽培システムは地下部の環境を管理する様々な特長を持っています。今までの土耕栽培ではコントロールできなかった要因を制御することにより、さらなる高収量、高収入を実現します。



「高収量=高収入の実現」を構成する さまざまな特長。



肥料コントロール

元肥を最初に投入する土耕栽培と異なり、作物が必要な肥料を適時、適量に与えることができます。そのことにより、植物体をコントロールすることができます。また、排液の成分を分析することにより、どの肥料成分を吸収できたのかがわかり、作物の健康状態もデータで把握することができます。



水量のコントロール

植物の光合成は根から取り入れた水を使って行います。養液栽培システムでは日射積算による適時、適量の水を自動的に作物へ与えることができます。また、培地より排水される水量を確認できるので、灌水の量、タイミングが適切かを見定めることもできます。



栽培をデータ化

灌水の量や回数、積算日射量などをデータとして残すことができます。これにより栽培時の成功要因や課題がはっきりとわかり、改善を直ちに行うことで問題点を修正できます。また、他の生産者と栽培の比較を行う場合も、データを用いることで内容が明確となり、情報交換が正確に行えます。



土壌の病気リスクを低減

ベンチにより、培地を地面と切り離していますので、土中からの病原菌の侵入を防ぐことができます。また、培地に病害が発生しても発生した部分を培地ごと取り除くことができますので、伝染のリスクを最小限に抑えることができます。



ロックウール栽培システムを使用した施設での収量が

日本最高水準の収量を達成しています。

トマト実績 株式会社トマトパークでの収量



国内品種 大玉トマト 国内平均収量 約15t/10a
62t/10a 達成!



海外品種 大玉トマト
95t/10a 達成!



ミニトマト 国内平均収量 約9t/10a
32t/10a 達成!

キュウリ実績 誠和リサーチパーク鶴での収量



国内平均収量 約15t/10a
50t/10a 達成!

パプリカ実績 誠和リサーチパーク鶴での収量



国内平均収量 約12t/10a
32t/10a 達成!

常に一步先をゆく様々な取り組みを実践している誠和だからできる!

誠和の栽培システム +栽培ノウハウ	+	常に新しい技術の開発	+	積み上げてきた ロックウール栽培の実績
----------------------	---	------------	---	------------------------

高収量 = 高収入

※上記実績の収量は積算収量(t/10a)

新生ロックウール栽培システム

SHガターDuo

株式会社誠和は1985年にロックウール栽培システムを国内で初めて販売しました。今までの栽培ノウハウや環境制御技術の粋を集めた新しいロックウール栽培システム。それが「SHガターDuo」です。



SHガターDuo 特長・メリット

ハンギングシステム



ハウスの上部からベッドを吊り下げる「ハンギングシステム」を採用。このことにより、ベッド下にCO₂ダクトを通せるなど、空間の有効活用ができます。また、作業通路にダクト等が無いことで、人の出入りもしやすく、作業性も高まります。ハウス形状によっては地面に支柱をたてて設置する「サポートタイプ」も提供可能です。



セパレートタイプの排水ガターを採用



排水部は独立したガターをベッドの両脇に配置。そのことによりハウス中柱を跨いだベッド設置も可能となり、定植本数も通常より多くできます。さらに専用のフォーミングマシンで最長100mまでのつなぎ目のない排水ガターを作ることができます。ロックウールの設置部は樹脂パネルを採用。一般的なスチールガターと比較して温度変化が少なく、根圏の温度が安定します。

※施工現場にてフォーミングマシンを使用し、現場でセパレートタイプを設置できる場合は、施工現場にて作業します。
※パネルは現場にてつなぎ目をする必要があります。



新給液ユニット 「給液名人 かけるくん」

ハウス面積の大型化に伴い、給液ユニットも新しい方式になりました。従来のタンク式では対応できなかった広い面積での給液も連続希釈方式にて可能となりました。制御に関しては、日射量に合わせた給液をすることで、作物の光合成最大化に有効な制御が可能です。また、肥料に関してはEC制御だけでなく、pH制御も可能となり、より作物に適した給液管理ができます。

SHガターDuo 設置例



ベッド下の空間を有効活用できます。



通路に障害物が無く、作業効率が上がります。

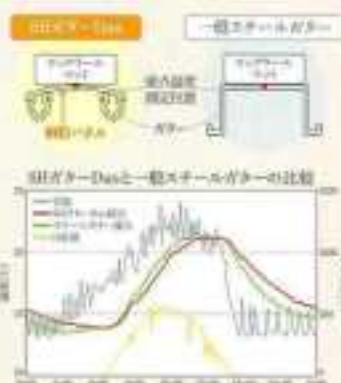


キュウリやパプリカなど、さまざまな果菜類が栽培可能です。

SHガターDuo 樹脂パネル／ガター

温度が上がりにくい樹脂パネルを採用

Duoは培地との接触面が樹脂でできており、スチールタイプと比較し、昼間温度が上がりにくく、夜間は温度低下がしにくい傾向にあり、根圏の温度が安定します。



施工現場でガターを加工

最長100mまでつなぎ目のないガターが設置可能。

※施工現場にてフォーミングマシンを使用



※ロックウール設置時に必ず設置する必要があるため、本機は30cm以下で準備が必要です。
※施工現場にてフォーミングマシンを使用し、現場でセパレートタイプを設置できる場合は、施工現場にて作業します。

項目	SHガターDuo
設置場所	温室・トンネル・ハウス・ビニールハウス
設置面積	100m以内
設置高さ	1.5m以内
設置幅	1.5m以内
設置長さ	100m以内
設置幅	1.5m以内
設置長さ	100m以内

イチゴ本圃栽培

新イチゴ養液栽培システム

利便性の高さと植え付け本数を伸ばせる新しいイチゴ栽培システム



新イチゴシステム 特長・メリット



利便性の高い高設ベンチ

根圏を地面から切り離すことで、炭そ病など土壌由来の病害や線虫による被害のリスクを最小限におさえることができます。また、高設ベッドは立った姿勢のまま収穫等作業ができますので、作業者の体の負担を軽減できるうえに観光農園にも向いています。



ハンギングシステム

イチゴでもハウスの上部からベッドを吊り下げる「ハンギングシステム」が可能です。ベッド下に温風ダクトを通せるなど、空間の有効活用ができます。また、作業通路にダクト等が無いことで、人の出入りもしやすく、作業性も高まります。

※ハウス形状によっては地面に支柱をたてて設置する「サポートタイプ」も提供可能です。



培地は杉皮培地を使用

培地に関しては、栽培面とコスト面の両方に優れている杉皮培地を推奨しています。杉皮は塩化ナトリウムが含まれないため、肥料濃度の低いイチゴ栽培でも肥料吸収が阻害されません。また、一般廃棄物として処理することも可能です。

※杉皮と異なる培地使用をご希望の場合は別途ご相談ください。

健全な栽培のための育苗システム“ナイアガラ育苗システム 発根くん”



一体型構造で効率良く作業ができる



培地が階段状に配置されているので、ランナーを切り離さずさし芽ができます。親株からのランナー発生からさし芽作業まで一箇所で行う一体型構造です。子株への給液は株元給液のため植物体が濡れず、炭そ病予防が期待できます。自動給液で灌水作業の手間がありません。

新イチゴ養液栽培システム 使用制限 / 発根くん 仕様

イチゴ栽培ベッド使用制限

	ハンギングタイプ	サポートタイプ
支持間隔	最大4[m]	両端1[m] 中間2[m]
積載荷重	196[N] (20[kg])	196[N] (20[kg])
最大ベッド長	50[m]	50[m]

発根くん仕様

- 電 源：単相200V AC
- 消費電力：100W
- 給液能力：4~20[l/min]
- 混入倍率：1/800~1/200倍
- 目安作成EC：0.4~1.0[mS/cm]
- 総給液ホース長：40~180[m] (当社給液ホースA-90採用時)
- 液作成：2液混入
- 重量：25[kg]
- 原水圧力：20[l/min] (0.1~0.35[MPa])



連続希釈給液方式で大規模ハウスにも対応
給液名人かけるくん

- 給液範囲**
- 吐出量 (吐出圧) : 50 (吐出圧0.4MPa) ~ 180 (吐出圧0.2MPa)
 - ドリッパー数 : 1,512個 ~ 5,454個
 - 総ベッド長 : 300m ~ 1,000m
- 仕様**
- 電 源 : 三相200V AC (50/60Hz)
 - 操 作 盤 : マイコン制御
タッチパネル付き7インチカラー液晶モニター
 - センサー : パルス変換式流量計
日照センサー (オプション)
pHセンサー (オプション)
 - 設定範囲 : E C: 0 ~ 4.0 (mval)
給液量: 0 ~ 35.0 (l/min)
ベッド長: 0 ~ 9999 (m)
排液量: 0 ~ 9.99 (l/min)
p H: 5.0 ~ 7.0
 - ポ ン プ : 給液ポンプ: 2.2kW (3000rpm) 2.2kW (3000rpm)
原水ポンプ: 0.75kW (3000rpm)
液肥吸入ポンプ: 10W × 3台 (3000rpm)
電 磁 弁 : AC200V 6.7W × 3台
AC24V 1.7W × 1台
 - 寸 法 : W × D × H = 1,200 (mm) × 1,100 (mm) × 1,542 (mm)

装置の特長

- 日照量に合わせた連続希釈給液制御
- 給液タイミング、量、肥料濃度がきめ細かくコントロールできる
- 正確な給液EC管理の実現
- EC管理や給液が手動でもできる
- タッチパネル式で簡単操作



きめの細かい給液管理を実現
スイコーマンα

- 給液範囲**
- 総ベッド長 : 100m ~ 540m
 - 吐 出 量 : 18 (吐出圧) ~ 97 (吐出圧)
- 仕様**
- 電 源 : 三相200V AC (50/60Hz)
 - 操 作 盤 : マイコン制御
タッチパネル付き7インチカラー液晶モニター
 - センサー : 水位センサー
日照センサー (オプション)
pHセンサー (オプション)
 - 設定範囲 : E C: 0 ~ 4.0 (mval)
給液量: 0 ~ 35.0 (l/min)
ベッド長: 0 ~ 9999 (m)
排液量: 0 ~ 9.99 (l/min)
 - ポ ン プ : 給液ポンプ: 0.4kW (3000rpm)
攪拌ポンプ: 0.2kW (3000rpm)
原水ポンプ: 駆動用マグネットスイッチ
標準装備 (オプションで2台まで)
原水電動弁: AC200V 10W
原液電動弁: AC200V 6.7W × 2台
 - 寸 法 : W × D × H = 2,150 (mm) × 1,200 (mm) × 1,500 (mm)

装置の特長

- 正確なEC管理ができる2液タンク方式
- 最大4系統まで給排液管理が可能
- 給液制御は積算日照制御
- EC4.0まで設定可能
- タッチパネル式で簡単操作

小面積用
小型給液
装置
近日発売!



日本最高峰のトマト栽培施設
トマトパーク



日本最高峰のトマト栽培施設「トマトパーク」は、敷地面積 約18,000㎡の広大なスペースを活かした最先端の施設園芸を体感できる日本で唯一のトマト栽培施設です。施設園芸における世界最先端の「試験・研究」、様々な情報を公開する「視察・見学」、そして次世代の農家を育てる「教育・研修」の3つを軸としています。トマト栽培の世界基準を、ぜひトマトパークでご体験ください。



研究開発の新拠点となる農場
リサーチパーク鶴



「リサーチパーク鶴」ではトマトの他、イチゴやキュウリ、パプリカ、アスパラガスといった様々な作物の栽培試験を行っています。養液栽培システムを導入し、栽培を基軸とした要素技術の実験・解析を行っています。さらには高収量を実現するための栽培技術の確立や栽培装置・プロファイナードクラウドの新コンテンツといった新商品の開発の場として活用しています。